

# 2012/2013 平成24年度



海老原修教授を委員長とする調査研究委員会を発足。その初年度は「大学における障害者スポーツの現状」についてアンケート調査を実施した。障害者スポーツに関する調査研究は、その後も継続されている

## 事業活動を通じて見えた課題 「障害者スポーツ」をテーマに、 調査研究活動がスタート。

この年から、スポーツ文化・啓発事業の新たな取り組みとして、スポーツ振興にかかわる調査研究活動がスタートした。初年度にあたる平成24年度は、海老原修教授(横浜国立大学 教育人間科学部)を委員長とする調査研究委員会を発足した。

平成23年に国が制定した「スポーツ基本法」および「スポーツ基本計画」の中で、障害者スポーツに関する記述が格段に増えた一方、それまで事業活動を通して理解を深め合ってきた障害者スポーツの選手や指導者、関係者からは、十分とは言えない育成・強化環境についての意見も聞かれていた。また国民の理解や関心もまだ低く、ロンドンパラリンピックを控えた関連報道も決して多いとは言えなかった。

新たに取り組む調査研究活動のテーマとして、障害者スポーツ、特にパラリンピック等の世界大会を目指す「アスリートの育成・強化環境の現状」の把握を掲げたのはこうした背景によるものだった。その具体的な取り組みとして、健常者アスリートや指導者の育成で実績のある大学を対象に「大学における障害者スポーツの現状」についてアンケート調査を行った。

アンケートを依頼した153大学の167学部・学科・コースのうち、51学部から回答を得てその分析を行った。結果、「障害者スポーツ選手に対する特別推薦制度がある大学・学部は5.9%」「障害者スポーツ選手のためのコーチ養成を実施しているのは2.0%」「バリアフリーに対応している体育館メインアリーナは20.4%」というものだった。

こうした調査結果を受け、海老原委員長は「オリンピックとパラリンピックがセットで議論されるグローバル・スタンダードにあって、この結果をいかに解釈するか」「体育やスポーツにおけるインクルージョン推進・実現に向けてこの調査で戦端を切りたい」と話した。障害者スポーツに関する調査研究は次年度以降も継続され、平成26年度には初めてのシンポジウムも開催した。

ロンドンオリンピック日本選手団が、金メダル7個を含む史上最多の38個のメダルを獲得。またパラリンピックでは、ゴールボールで団体競技初の実績を獲得した。8月20日に東京・銀座で開かれたメダリストの凱旋パレードでは約50万人が沿道を埋め尽くし、東京2020オリンピック・パラリンピック招致への機運を加速させた。一方、スポーツ指導の現場における体罰が社会的な問題としてクローズアップされた年でもあった。

### スポーツチャレンジ助成事業

ロンドンオリンピックにはOGチャレンジャーの黒須成美選手(近代五種)ら3選手が、パラリンピックには副島正純選手ら5選手が出場し、大会前に激励会を開いて特別チャレンジャー賞を贈呈した。また、年度末のスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングでは、JAXAの川口淳一郎氏を招いて特別講演「はやぶさが挑んだ人類初の往復宇宙飛行」を開き、一般参加の約200名が来場した。



#### ■平成24年度(第6期生)助成概要

	申請数	採択件数	助成金額
体験助成	53件	10件	890万円
研究助成	97件	12件	1,130万円
奨学生	17件	4件	480万円(1年分)
計	167件	26件	2,500万円

### スポーツ振興支援事業

#### ■ジュニアヨットスクール葉山

スクール生が16名に増え、葉山マリナーでのセーリング練習に加え、恒例行事となった浜名湖での夏季合宿、伊豆大島外洋航海訓練などの活動が行われた。7月22日に開かれた水辺の安全学習では、日本ライフセービング協会のインストラクターの指導により、「自分の命を自分で守る」知識と技術を養った。



#### ■セーリング・チャレンジカップIN浜名湖

全国20クラブから62隻・78選手が参加。東日本大震災で被災した宮城県気仙沼高校の選手2名と指導者1名が、輸送費の補助や参加費の免除を受けて参加した。

#### ■スポーツ教材の提供

858件の申請の中から182団体にサッカーボールセット、ラグビーボールセットを提供した。この中には、東日本大震災被災地の学校等82団体が含まれていた。また、磐田市立東部小学校(静岡)では、ラグビーボールセットを使ってヤマハ発動機ジュビロの選手による指導が行われた。



#### ■全国児童 水辺の風景画コンテスト

募集テーマを「水辺の遊び・水辺体験」「港湾・船舶・河川」「環境・自然・生物」「漁業・漁港・漁船」の4部門に変更。全国755団体から9,097点の応募が寄せられた。

### スポーツ文化・啓発事業

#### ■第5回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞



【功労賞】樋口 豊氏  
国際的な信頼と幅広いネットワークを活かし、日本フィギュアスケートの「開国」に貢献



【奨励賞】江黒 直樹氏  
「楽しいリハビリスポーツ」の普及を目指した日本女子ゴールボールチーム金メダルへの挑戦

#### ■調査研究

スポーツ振興に関わる調査研究がスタートした。「大学における障害者スポーツの現状に関する調査研究」を行い、報告書を発行するとともに、外部の専門家とともに「海辺の自然体験学習の教育的効果」に関する共同研究も実施した。